

高砂市議 一人会派 緑の党グリーンズジャパン

井奥まさきの市政ニュース

2017.1（月刊+：1月号 通算111号）



〔自宅〕兵庫県高砂市荒井町新浜 2-19-9

Tel 079-444-2343 Fax 444-2418

E-mail: ioku3@gmail.com

http://ioku3.sakura.ne.jp 新ブログも

ツイッター：@ioku3 Facebook・LINE: 井奥雅樹

「井奥まさき」
でweb検索を

2017年

バラマキの「サンタクロース」でも削りすぎの「ダイエッター」でもない第三の道を ～市民との透明性のある徹底議論で市の方向性決定を～

高砂市議 井奥まさき

バラマキも削りすぎも問題
2017年を迎えて、少し辛口の挨拶と抱負を述べます。

政治家が市民のニーズと欲望とを区別せず、「サンタクロース」のようになんでもバラマキのようなやり方はいただけません。登市政は3期目に入り、理念なき「バラマキ」型の施策が目立つようになりました。

しかし、一方で近年「削減」のみ熱心で現場の実情に合わない「改革」路線が市民の社会不安をあおり、そのことによって逆に「社会連帯」感が損なわれているのも事実です。EUのエリート官僚による緊縮財政のやりすぎが反発を呼び、EU内で混乱を呼び起こしています。そして、そっくり同じことが社会保障の分野で日本でも行われています。「改革」

路線は議員や首長・公務員の「おかしな風習・利権」をただすという効果はありますが、一方で人件費や社会保障の削りすぎのようなデメリットも呼びます。高砂市でもかつての緊縮路線を続けるあまり「職員視察費」などが削られ、市民が切実に悩む「相談」業務に十分な職員が配置されていないといった行政運営になっています。ダイエッターのしすぎも問題です。

第三の道を市民と探ろう

スウェーデンでは中学校から「財政」の項目で「減税」「料金」「増税」を議論させます。行政は情報を徹底的に公開し、透明性のある議論で「必要なサービス」に税金を使う合意をとるべきでしょう。大きく言えば、ハード＝箱もの優先から、ソフト＝人件費やサービスに使う合意をとっていきべき

です。公共施設の管理計画や平成29年度から始まる介護保険の新総合事業は市民と行政がまちづくりを考える絶好の機会です。

市民へのサービス変化や負担の議論から逃げることなく、徹底的な議論を行い、市の方向性を決めていくべきです。

「地球益」をめざす緑の政治

2017年は他にも衆議院議員選挙が遅くとも秋頃に行われる可能性があります。世界的にもアメリカのトランプ大統領誕生のように「一国主義」が横行する可能性があります。企業がますます多国籍化する「悪しきグローバル化」の反動ともいえます。私は環境や人権などの「地球益」を大事にする緑の政治を地域から今年も作り上げていきたいと思っています。

どうぞよろしくお祈りします。

3月の予算議会に向けての論戦のポイント

予算要望

平成29年度（2017年）予算に会派・緑の党としての提言

- ・公共施設の延べ床面積を減らす大きな方向性の中、個別計画づくりのスタートの年 専門家と市民による「施設仕分け」を
- ・相談業務を中心とした人員配置の充実などで職員負担減と時間外手当の抑制
- ・少人数でも質を高める視察・研修の充実を
- ・教育には「安定」も重要 「全市でのこども園実施」「小中一貫校の推進」といった教育破壊政策

- をやめること
- ・3歳児への教育試行は混乱のない実施を行うこと、またこども園優先ではなく、独立幼稚園でも検討し実施すること
- ・介護保険の新総合事業では実施にあたり混乱がないようにし、住民活動への支援にもなるように行うこと
- ・住民参加のまちづくりの新しい制度を活用し、アスパ公園問題や明姫幹線南地区、高砂町のまちづ

- くり一定の方向性をつけること
 - ・石炭火力発電所計画では市民公開の議論を保証し、健康被害予測などの情報を提供しつつ、計画の縮小提案を
 - ・市内の原発事故避難者の実態把握と対応を
- この他に3月議会ではぜひ高砂町のサンモール問題や市民病院の医師確保策について議論を行いたいと思います。

1月21日（土）14時～ユーアイ帆っとセンター1階 高砂市民まちづくり協議会 出前講座「高砂市市庁舎建て替え」高砂市の企画総務部職員が説明します。

朝の忙しい時ってなぜものが見当たらないのでしょうか

妻の通勤先が少し遠くなり、朝の送り出しは主に私が担当になっています。「帽子、箸、スモック、お茶…」と並び立てて確認しますが、「帽子がない」などと大騒ぎです。

「なんで昨日から用意していないんだ」とブツブツ言いながら一緒に探していると「あった」と申告が。「じゃあ全部そろったな、それでは行ってらっしゃい」と送り出してほっと一息。

さて、私も出かける用意を…と思っていると「忘れてた、今日は習字道具が必要だった」とバタバ

タと帰って来る音が。まるでものを隠したり、持っていくことを忘れさせる妖怪がいるみたい。

でも朝だけではありません。私の場合は「携帯電話」です。

出かけようとするで見当たらない。家の電話で自分宛てに電話して、音がなった方向を探す。その姿をじーと娘と息子が見ています。あ、みつかった。

照れ隠しに「もちろん、ここにあるのはわかっていたよ」と誰に言うわけでもなく言う。「ほんとかな～」と二人からツッコミが。

ある日、外出先で携帯電話を

忘れたことに気づき、家にいた妻に連絡。持ってきてもらいました。妻は持ってきながら「本当に大変だった。罨みたい。どこにあったと思う？」と。

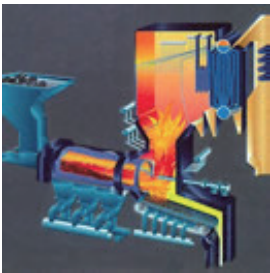
なんでも荷物が山積みになっている中二階の「ロフト」の紙袋の中だったらしい。どうも荷物を探していた時に胸ポケットに入っていた携帯電話が落ちたらしい。

「も、もちろん、わかっていたよ。」でも、絶対妖怪がいるね。



広域ゴミ

広域ゴミ処理施設 いよいよ契約・建設へ 5項目に提言



回転部があるIHI独自の「回転ストーカ式」

昨年の平成28年(2016)

12月議会で広域ゴミ処理施設

の契約案件が議決されました。いよいよ平成34年(2022年)完成に向けて広域ゴミ処理施設が建設されます。神鋼環境ソリューションが親会社となり、プラント

前回の反省	反省を踏まえた提言
①新技術である「ガス化熔融炉」だったため、ノウハウの蓄積がなかった	新技術「回転ストーカ」を採用しているが、ノウハウの蓄積は大丈夫なのか
②メーカーとコンサルタントと市が「守り」に入り、責任性が明らかにならなかった	SPC(特定目的会社)、プラントサービス部の責任性をはっきりとさせるべき
③経費・事故情報などの情報開示が徹底されていなかった	情報公開についてはより詰めた議論と細目協定(あるいは確認書)を
④ダイオキシン数値の測定は時間がかかり、基準超過時にも対応に時間を要した	測定の厳密化(グループ以外への測定依頼)、トラブル時の測定の厳密化
⑤住民への説明が後手に回り、地域の不安をかきたてた	住民説明の徹底 説明計画の提出を求めるべき

はIHI(石川島播磨)環境エンジニアリングが建設します。運営はこの目的のために設立した会社が担います。私は前回の炉の反省点をもとに5項目を提言。今のところ

メーカーからは前向きで誠実な回答があり、好感が持てます。

私も他の市議とともに引き続き安全な炉となるようメーカーや市に提言していきます。

一般質問

地域でお金をどれだけ回すか 「地域内乗数効果」の導入を



地域にお金が入ってきてもすぐに地域外に出て行けば豊かになりません。

高砂市で市内全体の消費をしらべた統計では「0.692」(30%程度が市外に流出)と低い数値を示しています。こういう状態は「漏れバケツ」と呼ば

れます。せっかく集めたお金が外に漏れ出ているわけです。それを防ぐためには「地域でお金を回す」仕組みが重要となります。

「地域でのお金の循環」を示すモノサシとして「地域内乗数効果」というものがあります。JFSという団体の試算では域内循環率80%と60%では同じ100万円投資しても倍近い効果の違いがあるとします。

全ての域内での流れを調べるのは不可能ですが、最初の3回分ではほぼ実態はつかめるようです。

どれだけ正規雇用が増えたかの「正規雇用率」とあわせ、「投資したお金が地域で回る」ということに注目したモノサシを高砂市も採用すべき、例えば大規模な公共事業などの効果測定に使うことから始めては、と一般質問などで訴えました。